

羽田発着枠配分基準検討小委員会 ヒアリング資料

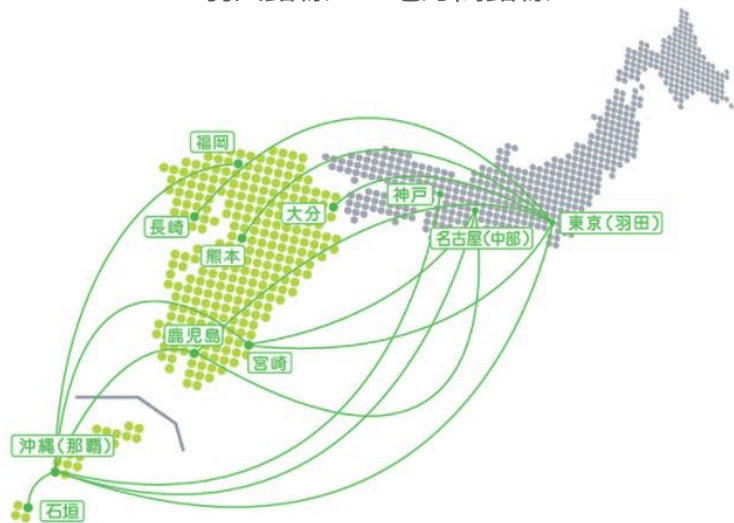
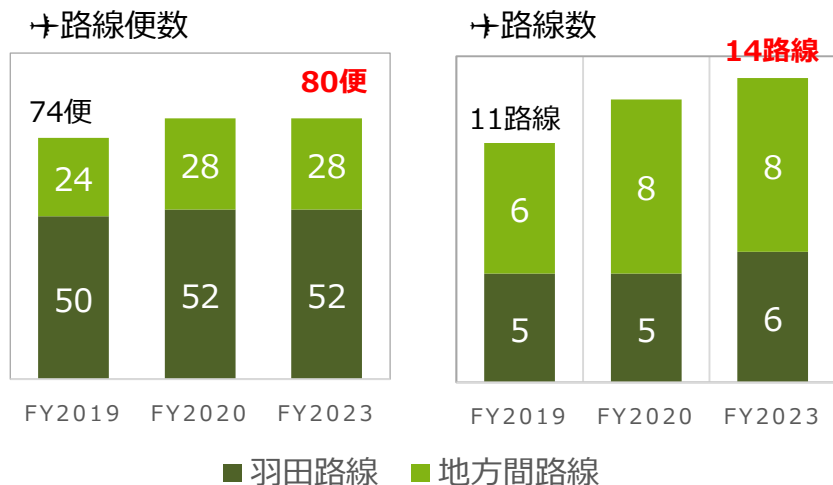


2024年4月16日
株式会社ソラシドエア





- 当社は九州と羽田・沖縄を中心に路線ネットワークを拡充し、お客様の利便性の向上と地方経済の活性化に貢献するべく努めてきました。

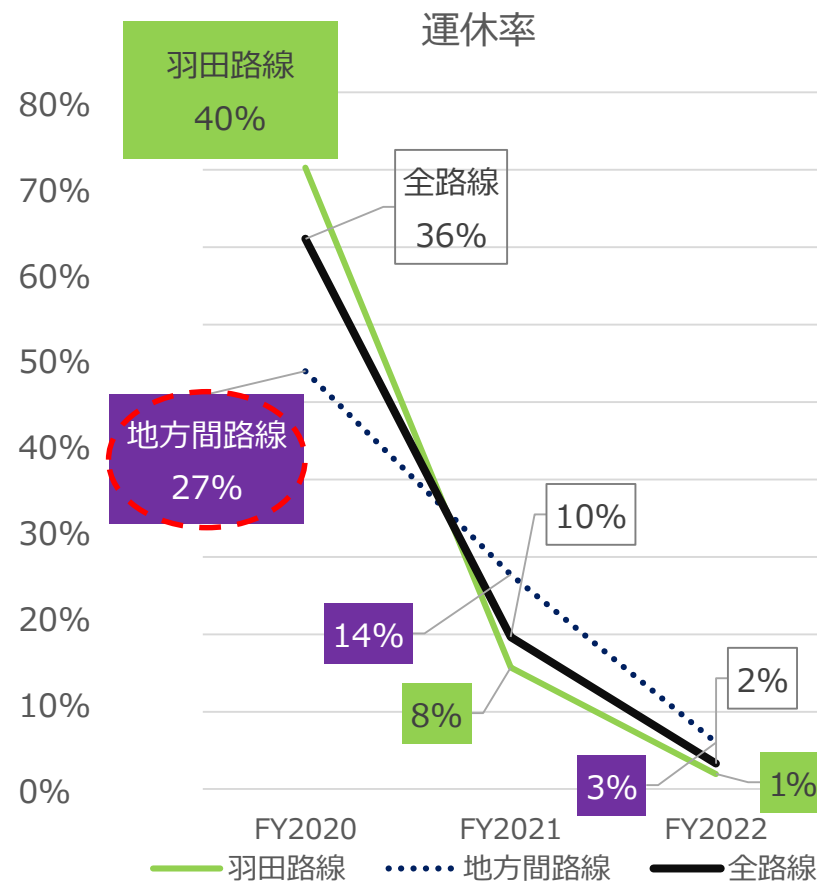
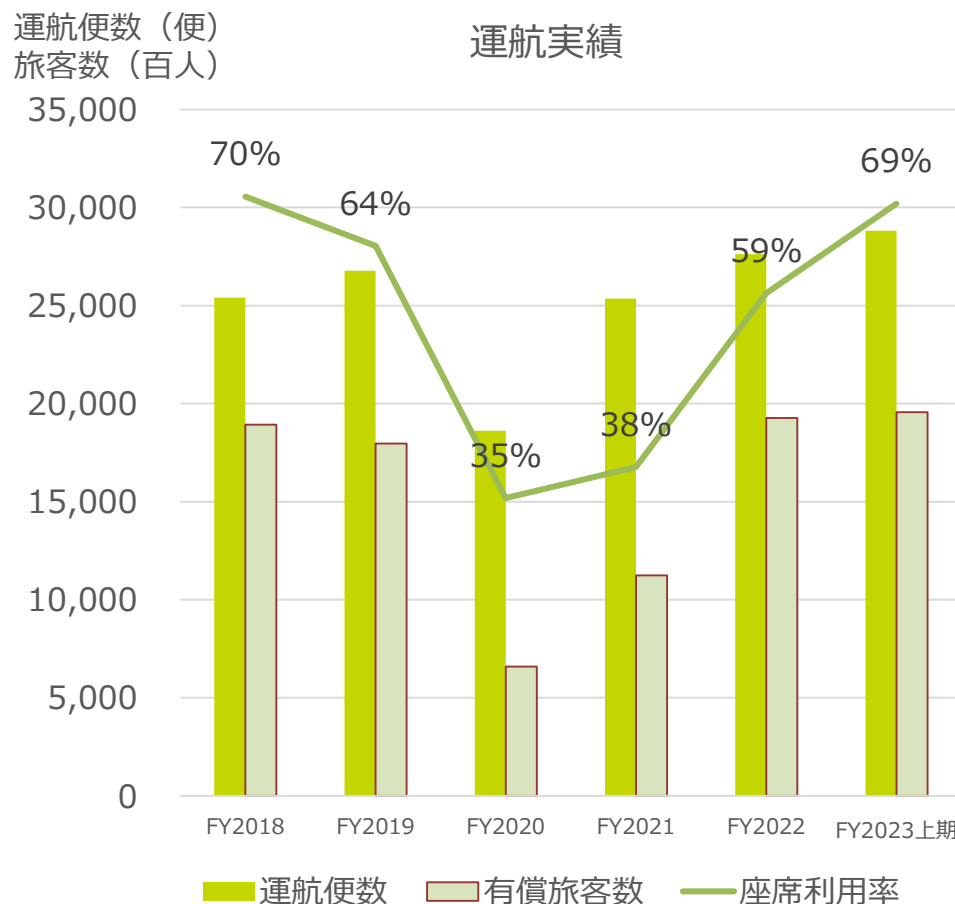


就航ルート		路線	1日あたり
東京 (羽田)	宮崎	6路線 52便 26往復	12便 (6往復)
	熊本		10便 (5往復)
	長崎		8便 (4往復)
	鹿児島		8便 (4往復)
	大分		8便 (4往復)
	沖縄 (那覇)		6便 (3往復)
沖縄 (那覇)	鹿児島	6路線 20便 10往復	4便 (2往復)
	宮崎		2便 (1往復)
	神戸		6便 (3往復)
	石垣		4便 (2往復)
	名古屋 (中部)		2便 (1往復)
	福岡		2便 (1往復)
名古屋 (中部)	鹿児島	2路線 8便 4往復	4便 (2往復)
	宮崎		4便 (2往復)

2024年4月現在



- コロナ禍では需要が大幅に減少し、運航便数減を余儀なくされました。最も影響があった2020年度は運航規模を最小化しましたが、地方間路線（少便数）は運休率27%にとどめ路線を維持しました。羽田路線では路線ネットワークの見直しを図り、希少な羽田枠を活用しました。
- 2023年度は円安・原油高などの厳しい外部環境は続いており、大きなダメージを受けた地元と共に復活すべく、ローカルエアラインの意義を再認識いただいた地元と価値共創の取り組みを強化しております。





- 2020年2月以降、コロナ感染症拡大と航空需要の消失による大幅な減収から、きめ細かな減便による運航変動費の抑制、各種費用削減（航空機リース料見直し、サービスの見直し等）、設備投資の抑制を図り、雇用は維持して参りました。
- また、事業継続のため既存株主からの増資、AIRDOとの持株会社リージョナルプラスウイングス（RPW）設立による協業などの経営努力を行ってきましたが、依然として財務体質は回復しておりません。

共同持株会社設立の基本方針

- ①AIRDO／ソラシドエア（以下、両社）は、共同持株会社設立後も、「北海道の翼」「九州・沖縄の翼」として、それぞれが航空運送事業許可および固有のブランドを有する地域に根差した航空会社として、引き続き地域社会とともに持続的な発展を目指す。
- ②両社は、可能な限りの業務共通化や知見共有等によるさらなる費用削減と、新たな価値を共創することによる収入拡大に向けた取り組みの推進を目指す。
- ③共同持株会社を通じた新たな組織体制の構築による経営基盤の一層の強化と、地方路線の安定した航空ネットワークの堅持により、お客様への一層の付加価値の提供および持続的な成長を目指す。

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	(百万円)	41,850	20,255	26,102	38,697
営業利益	(百万円)	1,425	△10,509	△6,230	△465
営業利益率	(%)	3.4%	△51.8%	△23.8%	△1.2%
経常利益	(百万円)	1,306	△9,649	△5,386	△306
当期純利益	(百万円)	990	△7,694	△2,939	684
純資産	(百万円)	11,831	5,751	6,444	5,063
自己資本比率	(%)	37.4%	13.9%	14.7%	11.6%
有利子負債（期末）	億円	56	187	217	213



- 当社は、地元価値共創に取り組んでおり、地元の多彩な魅力に触れる機会を創出し、地元のヒト・コト・モノの交流を促進する活動を行っています。

地域とソラシドエア ～九州・沖縄プロモーター～



『地域×空恋』

機体に九州・沖縄の地名を表示し、機内でも自治体独自のPRを頂き、地域のPRに活用いただいています。お客様に、空の旅を通じて、九州・沖縄の街と出会い、恋をしていただきたい...そんな思いから、この「空恋プロジェクト」が生まれました。(2024/3末実績41自治体33機)



『地域×移住』

移住ドラフト会議は、プロ野球のドラフト会議に見立て、球団側が「地域」、選手側が「移住希望者」と設定し、地域側が移住希望者を選出するというイベントです。当社は2018年からメインスポンサーとして、共に地域を盛り上げるサポートを毎年行っています。



『地域×食』

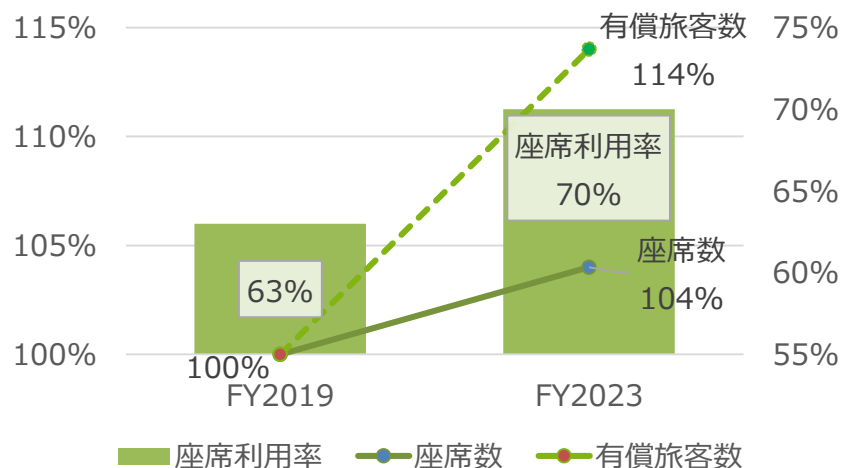
自社での空陸一貫 高速小口貨物輸送事業「ソラチョコ便」を2021年10月に開始しました。当日配送のメリットを活かし、距離と時間の壁を越えて、地元の魅力的な食材などを首都圏にプロモートしています。
ソラシドエアオンラインショップでは、九州・沖縄の商品を直接お届けする「産地直送」商品の取り扱いを行っています。地元の魅力を全国へお届けしています。





発着枠の有効活用

- 当社は前回の回収・再配分後の発着枠数25枠と、未使用の新規参入枠で暫定使用している1枠の合計26枠を有効に活用し、お客様の利用者利便の向上に努めています。
- 夏休み、春休みの多客期では、小児運賃を期間限定で値下げし、家族の旅行や帰省需要の促進を行っています。



国内・国際チャーター運航便

- 新型コロナウイルス感染症拡大前には九州沖縄と台湾の国際チャーターを運航し、地元へ誘客を図っています。
- 国際チャーター便で訪日されたお客様を当社の羽田線や地方間路線で国内移動に供することが必要と考えています。

国際	路線	国内	路線
FY2015	宮崎－高雄(台湾)	FY2013	宮崎－石垣
FY2016	羽田－仁川(韓国)		熊本－石垣
			宮崎－旭川
FY2018	福岡－桃園(台湾)		宮崎－仙台
	鹿児島－桃園(台湾)	FY2014	宮崎－旭川
	長崎－桃園(台湾)		宮崎－富山
	大分－桃園(台湾)	FY2015	宮崎－石垣
	熊本－桃園(台湾)	FY2016	宮崎－石垣
FY2019	那覇－桃園(台湾)		宮崎－仙台
	熊本－桃園(台湾)	FY2017	福島－那覇
	鹿児島－桃園(台湾)		宮崎－旭川
			宮崎－仙台
			中部－石垣
		FY2018	宮崎－旭川
			宮崎－五島福江
		FY2019	宮崎－旭川
			中部－下地島
		FY2022	福島－那覇
			福島－熊本
		FY2023	福島－那覇
			宮崎－千歳



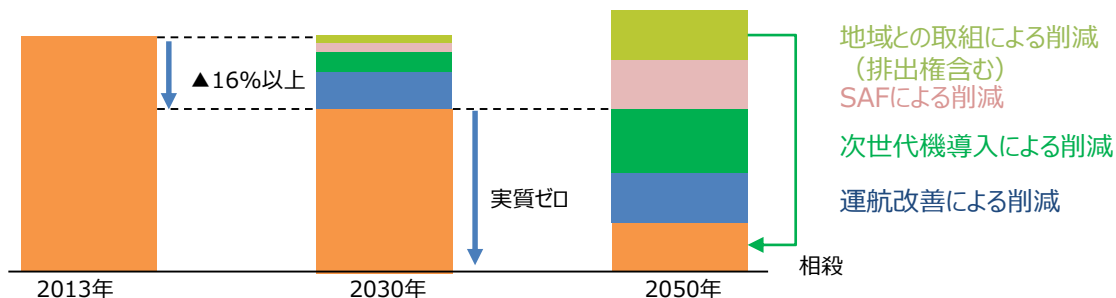
カーボンニュートラルへの取り組み

CO2排出量削減目標

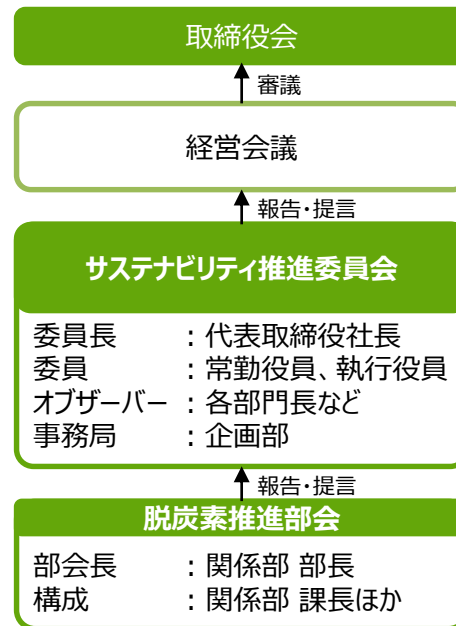
- 当社は、「2030年に、航空分野における単位輸送量当たりCO2排出量を2013年度比16%削減すること」及び「2050年カーボンニュートラル」を目指しています。
- カーボンニュートラルを含むサステナビリティ経営を推し進めるために、**サステナビリティ推進委員会**を設置し、経営会議の諮問委員会として戦略立案、施策のとりまとめを行っています。
- 目標達成にあたっては、航空事業での取り組みに加え、「地域×脱炭素」として、地元とともに脱炭素に取り組んでいます。

CO2削減へ向けた戦略

- 2030年、2050年の目標達成にあたっての戦略は現在策定中ですが、以下の施策を推進してネットゼロ社会を目指してまいります。



<サステナビリティ推進委員会>



サステナビリティ推進委員会の役割

- ✓ サステナビリティ活動に関する全体計画の立案
- ✓ 各本部/部・室が行う施策の進捗状況のモニタリング、達成状況の評価
- ✓ 議論内容を経営会議に報告・提言を行う



地域×脱炭素 ～ソラシドの森（田島山業との共同事業）～

地域×脱炭素・地域活性化の取り組み

- 当社では、脱炭素活動についても、地域と共同で取り組んでいます。
- 田島山業は、鎌倉時代から大分県日田市中津江村を拠点とする、日本有数の大規模専業林家で、GXリーグ（*1）にも参画されています。田島山業と連携し、CO2削減や生物多様性の保全・回復に貢献する取り組みを開始します。
- 脱炭素・生物多様性だけではなく、森づくりを軸にした地域や地域住民と多様な形で関わる、関係人口の創出に向けた取り組みも行っています。

（*1）GXリーグは経済産業省による、グリーントランスフォーメーション（GX）を推進するための枠組みであり、排出権取引などの市場ルール形成の場



ソラシドの森 概要

- 九州でも有数の山林エリアである中津江村の約1haの土地を「ソラシドの森」として整備し、田島山業に管理委託します。
- 当社社員も植樹、下刈り活動に参加します。
- カーボンクレジットの創出を行い、地域とともに脱炭素社会の実現を目指していきます。
- また、森を中心に地域や住民との多様な関りを作り、関係人口の創出を図るとともに、九州・沖縄の翼としてローカルプライドの醸成にも繋げてまいります。



候補地
（約1ha）



グランドハンドリング分野における協力・支援・連携等の取組みや考え

- 定期便や臨時便、チャーター便を計画する場合において、委託先の対応が図れない事態が顕在化しています。特に地方空港の委託先（宮崎交通、南国交通等）の厳しい状況に配慮したダイヤ策定、委託料の見直し等に努めています。

旅客ハンドリング、整備

- 2023年度には、羽田空港における旅客ハンドリングをAIRDOと協業しており、イレギュラー時の対応力向上等に努めています。
- 2024年度には、当社とAIRDOの整備機能を集約し、両社から委託していくことを予定しています。

従業員満足度の観点から今後の処遇の方向性

- 人財への投資は重要であり、働く環境や働き方について各種改善を図っていくことが肝要と考えます。それを踏まえ今年度中を目途に賃金含め、人事諸制度については、改善、改訂を行う予定にあります。
- 今年の春季交渉においては、人への投資の観点から初のベースアップ（12,000円）を含む改善措置を実施しております。
- 多様性への配慮を進めており、女性活躍推進や社内制度における配偶者の定義の見直し等に努めています。



評価の対象とする期間

- 2020年2月以降、新型コロナウイルス感染症拡大と航空需要の消失による未曾有の事態から、全社がコスト削減や構造改革のために大幅な減便を行いました。
- 2023年5月には新型コロナウイルス感染症が5類へ移行しましたが、一方で働き方・暮らしの多様化、デジタル技術の進展等に伴う市場構造の変化もみられます。
- 上記のような特殊な状況であった期間（2019年度～2023年度）については、公正な評価はできないものと考えます。

既存の配分枠

- 公租公課の減免や燃油補助等のご支援をいただいておりますが、航空需要は回復しつつあるものの、円安の進行と原油高、整備部品の高騰等によるコスト増加が続いています。このため、国際線（外貨収入）を有しない各社は財務改善には時間を要すものと考えます。
- 当社は、幹線比率が低く、地方路線の比率が高い為、更に厳しい状況にあり、事業基盤の前提となる羽田空港の発着枠が変動すると経営に著しい影響を受けます。
- 安定した地方路線ネットワークを維持し、コロナ禍でダメージを受けた地元と共に復活すべく地元価値共創の取り組みを強化していく上でも、今回の回収再配分は行わず、当面の間は現行の配分枠を継続すべきと考えます。



空から笑顔の種をまく。

人と人が出会い、心が打ちとける時、

人は自然と笑顔になります。

再会の喜びの笑顔、まだ見ぬ人との出会いの笑顔。

そんな笑顔の種をまき、

日本中に笑顔をひろげていきたい。

それが私たちの願いです。

商 号 株式会社ソラシドエア

所 在 地 (本社)
〒880-0912
宮崎県宮崎市大字赤江 宮崎空港内
(東京事業所)
〒144-0041
東京都大田区羽田空港3-3-2
第1旅客ターミナルビル4階

資 本 金 1億円

代 表 代表取締役社長 高橋 宏輔

従業員数 約1050名（2024年3月時点）

保有機材 B737-800型機
保有数 14機
座席数 174席/176席